

国際芸術祭「あいち2022」芸術大学連携プロジェクト

アートラボあいちと
四芸大による

連続 個展

会場 | アートラボあいち

休館日 | 月曜日(祝日の場合は開館)

展示替え期間

・8月15日-19日

・9月5日-9日

・9月26日-30日

開館時間 | 11時-19時

入場料 | 無料

主催 | 国際芸術祭「あいち」組織委員会、
愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、
名古屋造形大学、名古屋学芸大学
助成 | 一般財団法人地域創造

概要

愛知県には芸術実践を学ぶ学校が多数存在します。本事業は愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学、名古屋学芸大学の四大学とアートラボあいち(以下ALA)が協働して、各大学教員とALAスタッフでチームを組み、各大学を卒業・修了10年以内のアーティストを各1名ずつ選出し、芸術祭の会期に合わせ個展形式で紹介するものです。

選出されたのは4名の20代の若い作家で、3部屋で構成されるアートラボあいちの展示室は彼/彼女らにとって新しい挑戦の場となるでしょう。展示を作り上げる過程においては、チームメンバーがメンターとなり、作家たちと対話を重ね展覧会を実現していきます。愛知という地でこれから生まれる新鮮な表現活動にご期待ください。

イベント情報

各展示に関連したプログラムを実施予定です。

詳細は、アートラボあいちWebサイトをご確認ください。

○新型コロナウイルス感染症の状況により、展覧会の会期などを変更・中止する場合がございます。○来館にあたっては、アートラボあいちの新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力ください。

YUTO SUGITANI
AYANO SUZUKI
KAYONO SUZUKI
MAYUKO ONO
ZOKIKO YAMADA
KUNIO SUGITANI

大野未来「片隅で〇になる」
8月20日(土) - 9月4日(日)
スズキアヤノ「SPRING&SUMMER COLLECTION」
7月30日(土) - 8月14日(日)
山田憲子「うみになる」
9月10日(土) - 9月25日(日)
杉谷遊人「語源は話す、いくつかの方法」
10月1日(土) - 10月16日(日)



10.01 Sat.

杉谷遊人

語源は話す、
いくつかの方法

10.16 Sun.

杉谷遊人 | Yuto SUGITANI
—
2022年 名古屋造形大学大学院造形科修士課程洋画研究領域修士
活動拠点 | 愛知県
—

タブローの問題を軸に、タブラ(tabula)という語をひとつの芸術形式として捉え制作を行う。ラテン語で「板」を意味する語が、タブローやテーブルを含むさまざまな語に派生・分化したことに注目し、語源にあたるこの語に内在する複数の発現や論理を、共時的に構成しうる事物の在り方をタブラ(tabula)とする。この形式を作品の基本構造として組み込み、従来とは異なる枠組みによるタブローの構築を試みる。
主な展覧会に、「day to day」(2018年、名古屋市市政資料館、愛知)、「宙吊りな定着」(2018年、名古屋造形大学内石影場コンテナU8projects、愛知)、「清須市第9回はるひ絵画トリエンナーレ」(2018年、清須市はるひ美術館、愛知)

【推薦者コメント】
杉谷遊人は絵画の問題について取り組んできたフォーマリスティックなアーティストだ。これまで様々なアプローチで絵画の在り方について展開してきた。新しいシリーズである「Tabula」はタブローとテーブルの語源であり板を意味する。ここににおいては確定不可能性という問題意識を作品構造へと組み込むことで、従来とは異なる在り方で成立する絵画の構築を試みている。まだはじまったばかりの展開だが、出自についての矛盾を肯定的に解消していき、その要素を視覚化し展開する様は現在の不穏な社会状況を俯瞰して捉えなおす何らかの契機になるはずだ。
(佐藤克久)

スズキアヤノ

SPRING&SUMMER
COLLECTION

7.30 Sat.

スズキアヤノ | Ayano SUZUKI
—
2020年 愛知県立芸術大学大学院美術研究科修士課程油画・版画領域修士
活動拠点 | 東京都
—

身近に存在している風景やものをモチーフにし、絵画を中心に制作。ドローイングを重ねてかたちを探りながら、ポップな色彩と線によって作りあげてゆく。描かれているものは、どこか動きださそうな躍動感があり、存在しているなにかのように思われる。鑑賞者は自然と、自身の中にある風景を思い浮かべながら、絵画を見上げているのかもしれない。“ある”のではなく“いる”と感ぜられる作品を展開している。
主な展覧会に、個展「オーガナイザー」(2019年、伊勢現代美術館、三重)、「アートフェア東京 -Future Artists Tokyo-」(2019年、国際フォーラム・寺田倉庫、東京)、「3331 ART FAIR 2018」(2018年、3331 Arts Chiyoda、東京)

【推薦者コメント】
鈴木彩乃さんの絵を見た時、この色、この歪な形、なんだろう。色々思うことがあります。鈴木さんに何を描いているのか聞いてみても、気の利いた答えがかえってこないかもしれない。でも大丈夫です。自分の中の記憶にある何かに結びつけてみてください。きつとその絵のイメージはいきいきと広がるでしょう。大きな絵というのもちよっとした仕掛けがあるかもしれませんが。少し後ろに下がると、イメージが少し変化するかもしれませんが。そのイメージの広がりや自分の価値観に任せることより良いかと思えます。きつとそれがその絵の正解なのだと思います。
(猪狩雅則)

AYANO
SUZUKI



8.14 Sun.

連続個展

連続個展

国際芸術祭「あいち2022」
芸術大学連携プロジェクト

アートラボあいちと
四芸大による

プログラム企画・運営

服部浩之(アートラボあいちディレクター)

近藤令子、半澤奈波(アートラボあいちコーディネーター)

岡本涼伽、小川愛、城所豊美(アートラボあいちスタッフ)

安齋萌実、大石茉幸、小西夏実、平松恭輔、

三浦琉聖、光村明莉、森夏音(アートマネジメントメンバー)

グラフィックデザイン

永戸栄大

アートマネジメントアカデミーについて

アートラボあいちと愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学、名古屋学芸大学による連携プロジェクトとして実施する人材育成プログラム。アートマネジメントについて多角的に学ぶレクチャーや月1回の読書会に加え、今回の連続個展を取り巻く実務にも取り組んでいる。

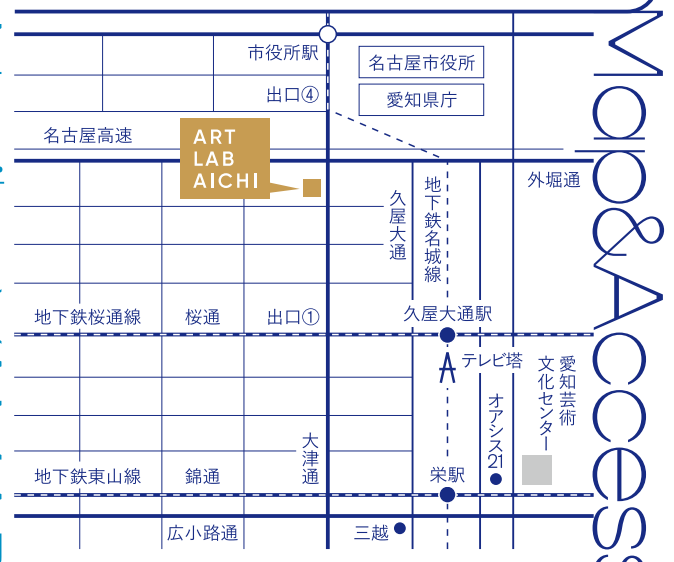
愛知県立芸術大学

名古屋芸術大学
NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS

名古屋造形大学
NAGOYA ZOKU UNIVERSITY

NUAS
名古屋学芸大学

ART LAB AICHI



地下鉄名城線「市役所」駅下車、4番出口から徒歩5分
地下鉄桜通線または名城線「久屋大通」駅下車、1番出口から徒歩8分

〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内三丁目4-13 愛知県庁大津橋分室2~3階
電話・FAX | 052-961-6633

アートラボあいちについて
国際芸術祭「あいち」を始めとした、現代アートを中心とする情報を収集し、発信する拠点です。展示会や様々なプログラムを企画・実施し、愛知県内の芸術系大学や地域の文化機関と連携した芸術活動を共に実践しています。
運営 | 国際芸術祭「あいち」組織委員会

国際芸術祭「あいち2022」
テーマ | STILL ALIVE 今、を生き抜くアートのちから
会期 | 2022年7月30日(土)~10月10日(月・祝) [73日間]

主な会場 | 愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区(名古屋市)

芸術監督 | 片岡真実(森美術館館長、国際美術館会議(CIMAM)会長)

主催 | 国際芸術祭「あいち」組織委員会

STILL ALIVE
国際芸術祭
あいち2022



AYANO SUZUKI MIKO
ONONORIKO YAMADAYUTO SUGITANI
NORIKO YAMAMADA



山田憲子

うみになる

9.10 Sat.

片隅で〇になる

大野未来

9.04 Sun.



8.20 Sat.

【推薦者コメント】
大学に入ってから本格的に描き始めたという大野は、わずか数年間で膨大な数の作品を制作しています。新聞紙や画用紙などに描かれた、人とも動物とも言えない奇怪なイメージは、壁のシミや亀裂、線など、偶発的に生まれたカタチや線に想起された印象と、大野の感情をつなげてきたものがつづなです。日々の細やかな感情が、イメージとつながって心象日記のように作品となって残されています。
卒業制作展では百を超える作品で壁面を埋め尽くしました。今回アートラボあいちでは、さらに大きな空間を使い鑑賞者を大野の世界に誘います。
(松村淳子)

大野未来 | Miko ONO
—
2021年名古屋芸術大学美術学部洋画コース卒業
活動拠点 | 愛知県
—
壁のシミや亀裂、物の影などによって連想されるイメージは自己の感情の姿を映し出す鏡のように存在している。その姿を捉え、描き出すことと観察することを繰り返し行うことによって自分と感情というものの距離感を掴もうとしている。
主な展示会に、「3331 ART FAIR」(2021年、3331 Arts Chiyoda, 東京)「DELTA」(2021年、駒込倉庫、東京)「あわいの視点 vol.2」(2021年、愛知県美術館、愛知)

(アールモンドックを見る) | 2021 | ミクストメディア | (3331 ART FAIR) 展示風景

山田憲子 | Noriko YAMADA
—
2016年名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科卒業
活動拠点 | 愛知県
—
写真を中心に制作。撮影行為によって生まれる対象との関わり、流れる時間から抽出された一瞬である写真を見つめ、反芻する制作を通じ、自身の日常を取り巻く光景や、記憶、体験に対峙する様を作品として提示している。写真に文章を交えながら、冊子、壁面、空間展示など展開方法は作品毎に変化している。
主な展示会に、個展「遠くに見える山の名前をおしえて」展(2021年、白伊、愛知)、グループ展「大名古屋電脳博覧会2019」(2019年、名古屋市民ギャラリー矢田、愛知)

(だれもとりつけない写真の中で(部分)) | 2019 | ヒジメプリント | (大名古屋電脳博覧会2019) 展示風景

【推薦者コメント】
山田憲子さんは名古屋学芸大学映像メディア学科在学中より、一貫して写真をベースにした作品を制作・発表しています。卒業制作として発表された「静かな時間」は、写真とテキストで構成された約25mもの蛇腹状の折本で、母親との往復書簡を軸に、これまでの二人の時間と関係を紡ぎ直すという作品でした。以降も、彼女は、自身を取り巻く人やモノと対峙しながら、写真とテキストを扱った作品を展開しています。「かつて」と「いま」を細やかに紡ぐ彼女の眼差しは、普段見過ごしてしまうような日常の機微を掬いあげ、記憶の追体験へと導きます。
(村上将城)